



# SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.5 2006.2



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学リサーチセンターニューズレター

## 目次

	ページ
● イベント報告	日本の義務教育と創造性 インスティテューショナル技術経営第二 コロキアム 2
● 海外活動報告	知的財産教育の情報交換 第1回 IIASA ・ IEF 評議員会 2
● コラム	会計基準の国際的共通化 3
● 学生の目	SIMOT とクラシック音楽 3
● 最近の動き	海外出張・研究者招聘 4
● イベント予定	第2回年次国際シンポジウム 平成17年度後期 SIMOT RA・ポスドク研究報告会 IMD and Tokyo Institute of Technology Meeting 4
● 連絡先	4

東京工業大学では、21世紀COEプログラム「インスティテューショナル技術経営学 (SIMOT)」遂行の中核センターとして、「インスティテューショナル技術経営学研究センター (SIMOT リサーチセンター)」を設置いたしました。  
同センターの研究内容・活動を、広く内外に知っていただくことを目的に、毎月 SIMOT リサーチセンターニューズレターを刊行しております。

## ■ イベント報告 ■

### 日本の義務教育と創造性 (2006年1月25日(水) 東京工業大学 百年記念館)



研究・技術計画学会 国際問題分科会 1月例会では、放送大学学園事務局長の折原守氏に、「日本の義務教育と創造性」とのテーマで講演していただきました。文部科学省が1月にとりまとめた「教育改革のための重点行動計画」、学習指導要領の変遷などについて、とくに、「学力の向上」に焦点をあて紹介。国際社会で活躍できる人材の育成における義務教育の役割、施策の体系化などについて活発な議論が行われました。

### インスティテューショナル技術経営第二 コロキアム (2006年2月10日(金) 東京工業大学 西9号館)

SIMOTでは、平成17年度より、内外ハイテク企業・官公庁の最先端のビジネス・行政の経験を有する特任教授主導による「インスティテューショナル技術経営第一、第二」を開講しております。講義には事業推進担当者も積極的に参画し、学際型教育を展開。また、各期末には、コロキアムとして各受講生の就学成果を発表する時間を設けております。第二回目となる今回のコロキアムでは、SIMOT RAを含む15名が発表を行い、特任教授陣を交えた討論が終日行われました。



## ■ 海外活動報告 ■

### 知的財産教育の情報交換 (2006年1月3日～8日 インド デリー大学, インド工科大学)

SIMOT 研究センター員/運営委員 佐伯とも子教授は、インドのデリー大学、インド工科大学を訪問しました。デリー大学では、知的財産権法専門の法学部教授研究室を訪問し、知的財産分野の教育について情報交換を行いました。インドでは、2005年1月1日から物質特許・医薬特許を導入した法律が実行段階に入るなど、制度が変化していくなかで、法学分野でも知的財産分野への関心が高くなっているようです。インド工科大学ではMBAコースの教育が提供されています。この中で、知的財産に関する科目は、1科目のみで経済系の先生によるものです。インドでは当然ながらすべて英語で教育が行われており、学生が日本での教育・研究を希望するにあたって、英語による授業・研究環境をより充実させることが重要と感じました。



インド工科大学

### 第1回 IIASA・IEF 評議員会(BOT) (2006年1月30日～31日 オーストリア, ウィーン)

国際応用システム分析研究所 (IIASA)は、冷戦期の1972年に米国のジョンソン大統領と旧ソ連のコスイギン首相の呼びかけで、エネルギー・環境・技術革新・人口問題等世界の英知を結集して世界大で取り組むべき課題について、政治的確執を超えて研究することをねらいにウィーンのマリアテレサの宮殿に設置された国際研究所です。昨年のSIMOT国際シンポジウムには、リン・ホーダイック所長が基調講演でその研究の取組みを紹介してくれたところです。35年の実績を誇り、昨年には長年IIASAで研究したトーマス・シェーリングがノーベル経済学賞を受賞する等そのレベルは世界トップと評されています。以上の足跡をもとに、今般オーストリア政府から研究基金(IEF)を設置することが認められ、その第1回評議員会(BOT)が開かれ、1994年以来12年にわたりIIASAの技術顧問を勤めるセンター長の渡辺千仞教授が、米境の評議員とともに出席しました。世界のための研究に世界の資源を結集しようという挑戦は決して平坦なものではありませんが、このSIMOTリサーチセンターにも果敢な啓発を与えてくれるものと思われま



## ■ コラム ■

### 「会計基準の国際的共通化」

SIMOT 研究センター センター員/ 運営委員  
東京工業大学大学院社会理工学研究科 講師 永田 京子



近年、資本市場の急速なグローバル化に伴い、会計基準の国際的共通化（convergence）への動きが進んでいる。共通化とは、文字通り、国や地域で異なる会計基準の違いを少なくし、世界で共通の基準作りを目指すことを意味する。その目的は会計情報の国際的な比較可能性を高めることにある。日本の会計基準も 2005 年から国際会計基準（IAS）との共通化に向けた協議が開始され、現在、日本基準と IAS との間で、複数の相違点が議論の俎上に載せられている。なかでも最大の問題と指摘されているのが業績報告である。従来から業績指標とされてきた純利益は、一般に、たとえば、経営者の報酬が業績に連動する場合に、報酬の増大を動機として、経営者が機会主義的に「演出」することも可能である。このため、IAS では、より経営者の裁量による影響が少ない新たな利益概念の採用を目指している。しかし、企業が活動する国や地域により、ビジネス慣行は大きく異なる上、経営者と外部者との間には情報の非対称性が存在するため、現場に精通した経営者が判断し、選択する結果として得られる純利益の方が、経営者の最善の見積もりが反映され、業績指標として適切であるという意見もある。いずれにしても、会計基準の共通化の進展には、企業がビジネスを展開する国や地域に対する理解を深めることが、大前提であるといえるだろう。



## ■ 学生の目 ■

### SIMOT とクラシック音楽

SIMOT RA 博士課程 3 年 郭 天放



11 月中旬に NHK ホールで行われた N 響のコンサートに招待されて行きました。高校時代からクラシックを聴きはじめましたが、現在は聴く時間があまりないため、久々にクラシックを楽しむことができました。コンサートの途中で、もしモーツァルトやベートーベンが 18 世紀ではなく、今の 21 世紀に生まれていたら、若しくはアジアで生まれていたら、どんな結果になっただろうかと、思いをめぐらせました。

個人の才能（イノベーション）と外的環境（インスティテューション）とがうまく合わされば、大きな成果が生まれるのは当然なことと思いません。また、歴史的な事象はほぼ一回しか起こらないので、同じ条件、環境、インスティテューションを再現することは不可能だと思います。しかし、SIMOT は、それらの関係を見つけて可視化させ、複製させることを目的としている学問であり、歴史を鏡として社会の進歩と技術の創造について貢献できると思います。



### SIMOT とは…

SIMOT とは、「インスティテューショナル技術経営学 (The Science of Institutional Management of Technology)」の略称です。日本の技術経営が本来機能を回復し、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。”サイモット“と呼称しています。

## ■ 最近の動き ■

### 海外出張

曹	2月19日~2月26日	オーストリア	
渡辺	3月16日~3月21日	フィンランド	タンペレ (Innovation Pressure Conference)
	3月21日~3月25日	オーストリア	ウィーン (国際応用システム分析研究所)

## ■ イベント予定 ■

### 第2回年次国際シンポジウム

日時 2月27日(月) 28日(火)

場所 東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館 デジタル多目的ホール

テーマ イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明

#### 基調講演者

- ネイサン・ローゼンバーグ教授 : スタンフォード大学名誉教授 (技術経済史の権威)  
 ルイス・M・ブランスコム教授 : ハーバード大学名誉教授 (「ダーウィンの海」の概念の提唱者)  
 藤井照穂氏 : マイクロソフト プロダクト ディベロップメント リミテッド : プレジデント  
 ジェームズ・C・アベグレン氏 : グロービス経営大学院大学名誉教授 兼教授, 元上智大学教授  
 (「日本型経営」の先駆的研究者、“終身雇用”を初めて使用)  
 下村満子氏 : 経済同友会 副代表幹事、元「朝日ジャーナル」編集長、  
 「朝日新聞」編集委員

シンポジウムに関するお問合せは、下記発行元連絡先までお願いします

### 平成17年度後期 SIMOT RA・ポスドク研究報告会

日時 3月27日(月) 13:15-16:30

場所 東京工業大学 西9号館 311号室



### IMD and Tokyo Institute of Technology Meeting

日時 3月29日(水)

場所 東京工業大学

14:30-17:00 西9号館 311号室 ワークショップ

18:00-20:00 百年記念館 第一会議室 フォーラム (研究・技術計画学会 国際問題分科会)

テーマ Competitiveness through Co-evolution between Innovation and Institutional Systems

講師 ジョルジュ・アウー氏 (スイス IMD 技術・革新的経営学教授) 他

## ●● 発行 ●●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム  
 「インスティテューショナル技術経営学」 SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51

東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内  
 西9号館 208B号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: [nakane@me.titech.ac.jp](mailto:nakane@me.titech.ac.jp)

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>

編集者: 菊池 隆